

① 大木
② 足りない
③ 空き

④ さゆう
⑤ いっしょう

② クッキー

② 気

③ A イチゴ
B かいぞく

④ [完答] I ウ II ア III イ
⑤ ウ

③ ① ク ② カ ③ イ ④ オ ⑤ エ ⑥ キ

④ ① 氷屋 ② べんり

③ イ
④ ウ

⑤ ひようばん
⑥ ア

配点

① 各2点×5=10点

②~④ 各5点×18=90点

<計>100点

① 「大木」は大きな木のこと。「木」は「ボク・モク・キ・コ」と読む。「木立」などのことばもおぼえておこう。②の「足りる」は分量などが必要だけあること。十分に「空きカン」は空っぽのカンのこと。「空」は「クウ・あ(ける)・そら・から」と読む。④「左右」は「右左」だと「みぎひだり」と読む。⑤「一生」は生まれてから死ぬまでのこと。「生」は「セイ・シヨウ・い(きる)・う(まれる)・お(う)・キ・なま・は(える)」と読む。

② 1 エプロンは料理をするときに身につけることが多い。「キッチン」ということばもあった。◎の文の空らんのとに「を作っているから」とあるので、作っているものを表すことばがあてはまると見当をつけてほしい。また、エプロンのことを昔からの日本のことばで、前かけということもおぼえておこう。

2 「お気に入り」は好みに合っているものこと。「れいなちゃん」は気に入っている「もよう」の「エプロン」を「もってきた」のである。どうやら「れいなちゃん」は料理を知っていたようである。

3 A 「もよう」になりそうな「三字」の「ことば」をさがしていくと、「ゆうだいくん」が「うるさいぞ、イチゴ」と言い、「れいなちゃん」が「イチゴじゃないよ、れいなちゃんだよ」と言っている。ただし、「ゆうだいくん」は、名前をまちがえたわけではない。「れいなちゃん」もまちがえたとは思っていない。「エプロン」の「もよう」を見て、そのように言ったのである。問5のことから考えると「イチゴ」の「もよう」がかわいいから、思わず「イチゴ」と呼んでしまったのかもしれない。

B ちゃんと名前で呼ばずに「イチゴ」と呼ばれた「れいなちゃん」が、そのしかえしに「かいぞく」と言いかえしている。その言い合いより前のところに「かいぞく」ということばがないと、つじつまが合わない。そして「どくろ」は「かいぞく」のマークである。

4 Iのあとの「れいなちゃんはちゅういしました」を見てIにアを入れてはいけない。すると、ウのはいるところがなくなってしまう。Iには「みさちゃん」が言ったことばとしてウがあてはまる。そうするとIIには「れいなちゃん」の「ちゅうい」のことばであるアがあてはまる。IIIには「かいぞく」と言われた「ゆうだいくん」がおこって言ったことばであるイがあてはまる。

5 「いばりんぼう」とあるからといってアをえらんではいけない。「みさちゃん」の「かわいい女の子があそびにきたからって、はしやがないの」ということばに「おこったように」答えたとで「赤い顔をして」いる。本心を見ぬかれて、しかもそれを「れいなちゃん」の前ではっきり言われて「はずかしい」のである。「エプロン」の「もよう」が「イチゴ」であることに気づいているのも「れいなちゃん」のことをよく見ているからだと考えられる。「かわいい女の子」のことを気にしているのである。

③

行事に関するものを答える問題である。ほかにもどんなものがあるか調べてみよう。

① 「一月一日」の元日には「おぞうに」やおせち料理を食べる。ウ「もちつき」は年末に行う。まちがえないこと。

② 「一月七日」の人日の節句には春の七草を入れた「七草がゆ」を食べて、長寿や健康をいのる。正月料理のごちそうであったかかれた胃腸を休めるといいう意味もある。

③ 「三月三日」の節句には厄をはらうために「豆まき」をする。年齢の数だけ豆を食べる。もともと関西のものであった、恵方巻をだまつてまるかじりする風習も全国各地に広がっている。

④ 「三月三日」の桃の節句(ひなまつり)には「ひな人形」をかざり、ひしもちやひなあられ、白酒を口にする。ちらし寿司やはまぐりの吸い物も食べる。

⑤ 「五月五日」の端午の節句には「こいのぼり」をあげ、武者人形をかざり、かしわもちやちまきを食べる。

⑥ 「七月七日」の七夕には「たんざく」に願いごとを書いて笹にむすぶ。七夕は織女(織姫)と牽牛(彦星)の伝説や、神の着物を作って棚にそなえる機織りの神事、習字の上達などを願う風習が合わさってきた行事である。

④

1 「コンビニエンスストアのはじまりとなる店」をつくったのは「もと氷屋」の「ザ・サウランドアイスカンパニー」という「会社」であった。「アイス」は氷、「カンパニー」は会社のことである。

2 「そのなまえのとおり」とある。「コンビニエンス」という「なまえ」の意味は「べんり」であった。

3 イ「オープン」は開けるといいう意味のことばである。開店「させた」ということばである。ア「ストア」は「店」のことだが、「ストア」させるという使い方はしない。ウ「アップ」は上げるといいう意味のことばである。生活の中でよく聞きする外来語はおぼえていこう。

4 コンビニにはいろいろの品物がそろっていて、朝はやくから夜おそくまであいている ↓ しかも ↓ 家のちかくにあつていつでもすきな時間に買えるものができる。

(コンビニエンスストアの長所をならべている)

5 「うけいれられ」たというのはみんなが使うようになったということである。「ひょうばん(評判)」は世の中の人の評価のこと。有名であるということでもある。

6 「登場」したころは「とてもすばらしくおもわれ」ていた「コンビニエンスストア」だが、「ほかの会社」のものもふくめて店がどんどんふえて、「ほとんどの店」が「二四時間営業」になると「べんりさ」が「あたりまえ」になって、あまり感謝されなくなったのである。「なつてしまいました」ということばから、よくないイメージを持たれたら考えやすかっただろう。イのように「べんりすぎて」も「いやにな」ることはないだろう。ウでは直前の部分と同じ内容がならぶので意味が通じない。